

令和元年度

学校評価



千葉県立東葛飾高等学校
定時制の課程

令和元年度 学校評価結果 千葉県立東葛飾高等学校 定時制の課程

領域	重点目標	自己評価の結果 (達成状況, 結果の分析)	改善方策 (自己評価の結果を踏まえた課題・改善の方向)	学校関係者評価 (開かれた学校づくり委員会からの意見)	学校評価のまとめ (課題と次年度に向けた改善方策)
	<p>1 校内での教育活動を積極的に公開し、地域から信頼される学校づくりを目指す。</p> <p>■具体的な方策(具体的な取組、手立て) ホームページの内容を定期的に更新し、最新の情報を提供するとともに、中学校訪問で学校の情報を積極的に提供する。</p> <p>開かれた学校づくり委員会やミニ集会等において、活動内容を紹介するとともに、意見や要望を聞く。</p> <p>■評価項目・指標(評価方法・評価基準) ホームページの掲載内容と更新状況の確認、中学校訪問による意見や要望の集計結果</p> <p>開かれた学校づくり委員会及びミニ集会の開催状況、参加者に対するアンケートの実施状況</p>	<p>1 スクールメールの登録者は、72%となり昨年度から10ポイント以上増加した。台風や豪雨等の非常変災時の対応等に大きな効果をあげた。また、定時制の教育活動をホームページで積極的に公開し、定時制の教育活動を理解してもらうに役立てることができた。ホームページの更新回数は、昨年度の17回から12月末現在で32回と向上した。</p> <p>職員による中学校訪問を開始して今年度で3年目となる。その結果、中学校の教員に本校定時制の理解を深めることができた。</p> <p>保護者アンケートについては、担任からの度重なる呼びかけとスクールメールを活用し回収率の向上を図った。しかし、昨年度56%だった回収率が、今年度は46%に減少した。</p> <p>保護者の「PTA活動に関心がある」の肯定的評価は、55%(昨年38%)と増加した。また、「子どもを本校に入学させてよかった」の肯定的評価は、96%(昨年95%)と高評価を維持することができた。</p> <p>引き続き、地域・保護者との連携を強化し、本校の教育活動への理解を深め、協力体制を高めていくことが大切である。</p>	<p>1 スクールメールの登録増加は、新入生説明会での呼びかけが効果を上げていると思われるので継続していく。ホームページは、授業公開や学校説明会及びPTA研修会などの情報を見やすく配置し、中学生の見学者や保護者の来校機会の増加を図る。</p> <p>中学校への情報発信は、現行どおり9月頃に全職員で分担して学校訪問による情報交換を行っていく。</p> <p>保護者アンケートでは、「本校のPTA活動に関心がある」については、まだまだ低い水準である。活動状況をホームページやPTA広報誌等により、積極的に発信することで、参加できない保護者のPTA活動に対する理解を深め、関心を高めていく。</p> <p>開かれた学校づくり委員会とミニ集会については、今後も、全日制と共同で開催する中で、情報発信と意見交換を進める。</p>	<p>①評価の表現方法は、よい。定時制の存在に大きい意味を感じるので、より良き教育を目指してがんばってほしい。</p> <p>どの項目も良い評価が多く、良い学校であることが分かる。</p> <p>全体的に昨年より評価がどれも上がっているが保護者の評価がそれほど上がっておらず、伝わっていないのではないかと。</p>	<p>①ホームページによる情報発信やスクールメールによる緊急情報の伝達は、引き続き積極的に進める。</p> <p>学校評価の保護者アンケートの回答率向上については、担任やスクールメールによる協力依頼を継続するとともに、保護者面談の活用も検討する。</p>
<p>学校経営</p>	<p>2 全職員が主体的に教育活動に取り組む校内組織と体制を確立する。</p> <p>会議の効率化や業務の精選に努め働き方改革を実践する。</p> <p>■具体的な方策(具体的な取組、手立て) 目標申告を活用し、職員の能力開発と生き生きとした風通しの良い職場づくりを実現し、業務分担の適正化を図る。</p> <p>■評価項目・指標(評価方法・評価基準) 目標申告を通じた具体的な取組及び自己評価の結果</p>	<p>2 委員会等における協議事項は、職員打合せで共有し、周知と共通理解の徹底に努めた。</p> <p>職員アンケートでは、「教育活動全般について職員の共通理解が図られている」に対する肯定的評価が78%(昨年83%)でやや減少したが、分掌・委員会活動の肯定的評価は72%(昨年56%)で大幅に上昇した。また、行事や分掌の業務においては、企画、立案は担当者が行い、実施については全員で協力する体制がみられた。その結果、職員の「業務内容の効率化や精選に努めている」の肯定的評価が83%となった。</p> <p>また同アンケート「職員研修が十分に行われている」に対する肯定的評価は94%(昨年78%)で大幅に向上した。これは、職員一人ひとりが、法令遵守や資質・能力向上に取り組んでいることの現れといえる。</p>	<p>2 定時制職員は、全員が職員室で執務を行っているため、管理職を含め職員全体のスムーズな意思疎通が実現している。今後は、働き方改革を念頭に、さらに小集団の利点を生かした会議の精選等業務のスリム化を行う。また、「風通しの良い職場づくり」をさらに推進し、目標申告に基づく管理職による面談や意見交換の充実、分掌会議の定期的開催、分掌構成と職員業務分担を常に意識できるように改善する。</p> <p>職員研修については、引き続き、喫緊の課題に対応できるテーマを選び、充実を努める。</p>	<p>②教育方針の三本の柱について、三者で共有できていることは経営の基本なので、更に深化すると良い。</p> <p>働き方改革について、多忙のなか、業務内容の効率化については、常に進めることが、明日につながると思う。</p>	<p>②業務の集中を改善するため、業務の見える化・情報の共有化を積極的に進める。事前打ち合わせの徹底を図り、共通理解のもと複数で業務にあたる体制を整える。</p>
	<p>3 安全・安心な教育環境を確立する。</p> <p>■具体的な方策(具体的な取組、手立て) 学校安全計画や危機管理マニュアルについて、必要な見直しを図るとともに、学校安全点検表を活用し施設・設備の定期的な安全点検を進める。</p> <p>■評価項目・指標(評価方法・評価基準) 各種表簿等の見直しと安全点検の実施状況</p>	<p>3 安全・安心な教育環境づくりに関するアンケートでは、肯定的回答が職員92%(昨年77%)、保護者97%(昨年90%)で、いずれも向上した。職員については、管理・厚生部を中心に、職員全員で学校安全計画や危機管理マニュアルの見直し及び学校安全点検を毎学期行ったこと、防災講話で生徒の防災意識の向上を図ったことが評価の向上になった。保護者については、スクールメールの活用による台風・大雨対応が高評価につながったと考えられる。</p> <p>生徒の校内美化・清掃への取組の評価は、肯定的回答が54%(昨年56%)と2年連続で2ポイントずつ減少した。生徒の美化意識・マナー向上の取組が必要である。</p>	<p>3 学校安全計画はや危機管理マニュアル及び学校安全点検表については、毎年、必ず見直しを行う。また、管理・厚生部に職員全体で安全点検、校内美化に取り組む体制を継続する。</p> <p>生徒の美化意識・マナー向上については、生徒会活動の活性化を図り、生徒が自主的に清掃活動やマナーの徹底に取り組む姿勢を育てる。</p>	<p>③清掃の取組は、校内の老朽化により仕方ないこと。</p>	<p>③引き続き学校安全計画や危機管理マニュアル、安全点検表の見直しを進め、安心・安全な学校づくりに努める。また、保護者との学校安全のための連携を一層強化する。</p>

領域	重点目標	自己評価の結果 (達成状況、結果の分析)	改善方策 (自己評価の結果を踏まえた課題・改善の方向)	学校関係者評価 (開かれた学校づくり委員会からの意見)	学校評価のまとめ (課題と次年度に向けた改善方策)
学習指導	<p>1 基礎・基本の定着を図り、授業の工夫・改善に努め、わかる授業の確立を図る。</p> <p>■具体的な方策(具体的な取組、手立て) 生徒の学力に適した教材の精選及びわかり易い授業を行う。 ICTの活用による視覚、聴覚からの理解とアクティブラーニングの手法による他者と協働し、自らの考えをまとめ表現する授業を展開することで理解の深化を図る。</p> <p>■評価項目・指標(評価方法・評価基準) 生徒による授業評価アンケートの結果 授業公開の実施回数、保護者・教員による授業参観と授業評価アンケートの結果 校内研究授業・研修会の実施回数とその状況</p> <p>2 生徒の能力の多様化に対応して、小人数指導と個別指導の充実を図る。</p> <p>■具体的な方策(具体的な取組、手立て) 1・2年次の英語、数学、情報等において小人数・TT等の授業を実施するとともに3・4年次の選択科目を充実させる。</p> <p>■評価項目・指標(評価方法・評価基準) 特別に実施した授業形態の実施状況</p>	<p>1 生徒の授業アンケートでは、次のような結果だった。 すべての項目において、肯定的評価が昨年度とほぼ同様の値となり、過去5年間の平均値を10ポイント以上上回った。これは、教員一人ひとりが、授業でICTの活用やアクティブラーニングの手法を積極的に進め「わかる授業」の展開に努めたことと、個々の生徒にきめ細かな指導を行ったことの効果の現れである。しかし、肯定的評価が85%を超える項目は、「授業の開始、終了」と「黒板の内容」の2つにとどまり、「授業はひきつけられる内容だった」は72%と質問項目の中で最も低い値となった。 今年度、保護者・地域等への授業公開を2日、中学生への公開を5回、教員相互の授業公開を1日、管理職による授業観察を1学期と2学期に行った。また、1学期に、若手教員研修チームの代表者による特別支援学校への授業参観を行った。</p> <p>2 1・2年次の英語、数学、情報等での小人数授業、TT等を導入し、学習効果の向上を図った。さらに、1年次では、英語や数学で中学校の内容の復習から授業を行い、個別指導の充実により生徒の能力の多様化に対応し効果を上げた。 3・4年次は、生徒の興味・関心や進路希望に対応できるよう選択制としているため、授業への参加態度を向上させることができた。 「予習や復習をしている生徒」は、32%(昨年32%)で依然として低い結果であった。仕事をしながら高等学校に通っている生徒にとっては家庭学習が困難な状況にある場合もあるが、時間的に余裕のある生徒に対していかに学習習慣を身に着けさせるかが課題である。</p>	<p>1 発達障害や不登校等、様々な課題をかかえた生徒が多く入学してきている状況下で、学習意欲や基礎的・基本的な学力が乏しく、人とのコミュニケーションを苦手とする生徒が多い。生徒の学習理解を深めるために各職員が工夫し、改善された項目と新たな課題項目等を意識した指導を心がけていく。特に、ICTの活用とアクティブラーニングの手法による授業展開は、生徒の授業への興味・関心を高めることと、コミュニケーション能力の向上に資することから、引き続き全職員で取り組む。 また、「高校生として必要な知識・技能習得」と「学ぶ楽しさや達成感を実感させる魅力ある授業づくり」は、両立すべきものであり、そのことを意識した授業研究や授業参観が今後とも重要であると考えられるため、年間計画に組み入れていく。</p> <p>2 小人数授業、TTによる個別指導の徹底は、生徒授業アンケート「生徒の理解を確認しながら次に進んでいた」の肯定的評価が82%だったことから、生徒の能力の多様化の対応に効果を上げている。このことから、各教科でPDCAサイクルにより今年度の授業を検証し、次年度の授業形態のさらなる改善をめざす。 1年次の導入期間の指導法と生徒の学習習慣の定着化については、引き続き、全教科の共通課題として取り組む。</p>	<p>①授業については、分かる喜びを目指す先生方の工夫が大きく、充実した内容になっているのだと思う。生徒からは、評価が全て上がっているのは重要だ。 初めて授業を見せてもらった。皆さんが前向きに真剣に取り組んでいる姿が素晴らしかった。</p> <p>②授業を参観したが、生徒が一生懸命に取り組んでいる姿に、ぜひ頑張っただけで人生を豊かにするようならば良いと感じた。 個性豊かな先生の授業展開に驚きました。しっかりと授業を受ける生徒の姿が素晴らしい。</p>	<p>①「わかる授業」への取組が進んでいることは、生徒の授業評価からも判断できる。 今後は、さらにICTの活用等を推進するとともに、教員相互の授業公開を通して授業改善の意欲向上を図る。</p> <p>②生徒の自己肯定感を高める授業づくりをめざす。生徒の学習活動のなかで「ほめる」場面を作ることで、「わかる喜び」を育む。この結果、予習・復習等の学習習慣の定着へとつなげていく。</p>
生徒指導	<p>1 生徒同士、生徒と教職員のコミュニケーションを重視した豊かな人間関係づくりを実践する。</p> <p>■具体的な方策(具体的な取組、手立て) 挨拶や声かけを重視し、共感を重視した生徒理解に基づく指導を実践する。</p> <p>■評価項目・指標(評価方法・評価基準) 登校時の挨拶運動、夕食時間の夕食指導や校内巡回、PTAの夜の見回りや学期始めの登校指導の実施状況</p>	<p>1 職員アンケートにおいて「職員は生徒一人一人に対して親身になって接している」に対する肯定的回答が100%(昨年94%)、生徒・保護者アンケート「本校の先生は親身になって生徒と接してくれる」も生徒85%(昨年81%)・保護者92%(昨年84%)と高い評価を得た。引き続き、丁寧な指導を実践していく。同様に「本校の先生は適切な生徒指導をしている」も生徒86%(昨年81%)、保護者93%(昨年87%)ですべて昨年度を上回り、高い評価を得た。 また、職員アンケート「人権(含いじめの未然防止)に配慮した教育」に対する肯定的回答が100%(昨年83%)であり、いじめを見逃さない学校づくりに向けて、職員の共通理解の徹底を図ることができた。</p>	<p>1 毎日行われている昇降口での挨拶運動や夕休みの校内巡回、夕食時の食堂での購買指導、学期始めの登校指導、PTAと連携した夜の見回り等を引き続き実践し、生徒とのコミュニケーションに努め、きめ細かな生徒指導をさらに徹底する。そこから、生徒同士の人間関係や不調生徒の情報収集と情報共有を進め、いじめの未然防止及び早期発見、早期対応に努める。</p>	<p>①夜の見守りパトロールをしてくださっていたことを初めて知った。大変かと思うが、とても良いことだと思う。</p>	<p>①生徒と職員とのコミュニケーションを積極的に図るために、挨拶運動や校内巡回を継続する。 保護者や地域との連携を一層強化し、情報交換を通して事故防止や問題解決を図る。</p>

領域	重点目標	自己評価の結果 (達成状況、結果の分析)	改善方針 (自己評価の結果を踏まえた課題・改善の方向)	学校関係者評価 (開かれた学校づくり委員会からの意見)	学校評価のまとめ (課題と次年度に向けた改善方針)
生徒	2 道徳教育や体験活動を通して、命の大切さや相手を思いやる心を育成する。 ■具体的な方策(具体的な取組、手立て) 特別活動や総合的な学習の時間における体験活動とLHRを中心とした道徳教育を充実させる。 ■評価項目・指標(評価方法・評価基準) 体験活動の実施状況と道徳教育を充実させるための工夫内容	2 今年度も昨年度に引き続き、道徳教育推進教員を中心に、校外の研修会に積極的に参加し、その内容を還元し年間計画の中に工夫して取り入れて実践へ生かした。 その結果、職員の「人権に配慮した教育」の肯定的回答は、100% (昨年83%) となり、職員全体で生徒の豊かな人間性を育む体制を整えることができた。 道徳授業は、担当年次の負担は大きいと思うが、次年度以降も職員全体で研修を通して理解を深めていく。	2 道徳教育に関する資料をさらに充実させるとともに、学校内外の研修会等を通じて、生徒の実態に合った道徳授業の工夫と教材作りに努める。 毎年度、1年次職員の担当者が中心に取り組んだ実績を次年度に生かし、改善・工夫した内容で年間計画を作成し、PDCAサイクルにより本校の道徳教育の定着と充実を一層推進する。	②基本的な生活習慣(授業、思いやり、いじめ防止)については、多感な時代なので、常に進めていきたい。	②生徒一人ひとり大切にしたい生徒指導体制は整ってきた。 SNS等に関するトラブル防止に重点を置いた道徳教育を推進する。
生徒指導	3 生徒に対する教育相談活動を充実させるとともに、いじめや暴力を見逃さない学校づくりの充実を努める。 ■具体的な方策(具体的な取組、手立て) 面談期間や日々の観察を通じ、生徒の心の変化を見逃さないように努める。いじめのアンケートや連絡会議を定期的に行う。 ■評価項目・指標(評価方法・評価基準) 個人面談、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーの活用等、生徒理解のための工夫・取組の状況、情報共有の実施状況 いじめ防止基本方針の取組状況	3 4年前、セクハラ・いじめ・体罰・特別支援教育・人権教育を担う組織を統合し、「教育相談委員会」として改編した。 今年度も定期的に会議を開催し、職員会議等で内容を報告し情報共有を深めた。スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーには、必要に応じて「教育相談委員会」や学年会等に参加していただき、指導助言を受けた。また、スクールカウンセラーによる、保護者対象の「ストレスマネジメント」をテーマとした教育相談研修会を実施した。これにより、学校と保護者の連携を密にして生徒指導にあたる機会を設けることができた。 職員アンケートでは「教育相談(含いじめの早期発見・早期対応)のシステムがよく機能している」に対する肯定的回答が94% (昨年83%) であった。生徒アンケートでは「本校の先生は生徒の精神的な悩みなどの相談に応じてくれる」に対する肯定的回答が80% (昨年78%) で年々上昇している。	3 「教育相談委員会」を中心とした相談体制及び全職員によるいじめのない生徒指導体制が整ってきた。引き続き、教育相談活動をきめ細かく行うとともに、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーを効果的に活用しながら、いじめの早期発見・早期対応に努める。また、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーとの連携方法、教育相談委員会の組織の在り方や運営について、構成メンバーや定期会議の設置の有無、各取組の見直しを図る等の検討を行う。 また、収集した情報や相談内容については、個人情報に配慮しながら、関係職員間で共有し実効力のある教育相談活動を行う。	③卒業後の進路指導だけでなく、悩みや相談に親身になって向き合っている。たいへん心強く、生徒との信頼感を築いているのだからわかる。 SCやSSWの活用が効果を上げていることがわかる。	③SC及びSSWとの連携が効果を上げているため、引き続き丁寧な情報交換を行うとともに、情報共有の徹底を図るために教員間の連携を一層強化する。
キャリア教育	1 生徒の進路意識の向上を図るとともに、教育活動の成果を、生徒個々の進路実現へとつなげる。 ■具体的な方策(具体的な取組、手立て) 関係機関との連携を強化するとともに、生徒の実態に合ったキャリア教育の工夫・改善を図る。 進路に関する個別指導の充実を努めるとともに、進路説明会やガイダンスなどを実施し、職業観や勤労観の育成に努める。 ■評価項目・指標(評価方法・評価基準) ハローワークや若者サポートステーション等の関係機関との連携状況とキャリア教育充実に向けた研修状況 個別面談の実施状況と進路説明会・ガイダンスの実施回数、参加人数、活動状況	1 例年実施の外部講師による進路ガイダンスの他、今年度は、ハローワークと連携した就職セミナーを前期(夏季休業中)、後期(冬季休業中)に実施し、就職希望者への指導の改善を図った。アンケート結果では「生徒自身が進路実現のために頑張っているか」という問に対して、生徒・保護者の肯定的回答は、生徒が66% (昨年66%)、保護者は71% (昨年74%) であり変化は見られなかったが、「進路に関する適切な情報提供」の肯定的回答は、生徒が86% (昨年76%)、保護者が90% (昨年82%)、職員が89% (昨年39%) で、大幅に改善した。 進路実現には本人のやる気が重要な部分を占めている。3、4年次の進路担当も工夫して指導している。「1・2年次あたりは、まだ進路について実感が無い」という指摘もある。定時制は近年、勤労学生よりも、発達障害や不登校等、様々な課題を抱えた生徒が多く入学し、将来の進路よりも、卒業すること自体が目標となっている生徒も多い。アルバイト等、仕事をしている生徒はかつて7割ほどいたが、今年度は、47% (内正規雇用は1名のみ) で大幅に減少している。	1 引き続き、ハローワーク等の外部との連携を強化するとともに、アルバイトの正しい選び方を教える機会を設ける。 また、スクールソーシャルワーカーを活用し、若者サポートステーション等の関係機関との連携を強化するとともに、県の研究指定校の先進事例等を参考に、特別支援教育の観点に立ったキャリア教育の推進を検討し、生徒の進路意識の向上を図る。 さらに、本校の特色でもある三修制や学校外の学修の成果の単位認定を紹介し、各自が自分に適したキャリアプランを考えさせるとともに、生徒が将来の夢や目標を見つけられるよう、ハローワーク等との連携を一層進め、生徒を支援してくれる外部機関と関わる機会を増やし充実させる。 今後は、LHR等でワークシートを活用し系統立てた進路指導を進め、進路情報提供を積極的に行い、卒業生の体験談やハローワーク講演会等について企画検討していく。	①将来の目標を的確に持ち、それに向かえる様、進路指導を行っていると感じた。 先生方も頑張っていてくださるので、どうぞ、このまま進んでいただきたい。 勉強を手段として、社会や世界の人たちのために働いてくださる方々を育成してほしい。	①より良い勤労観を育む指導を1年次から計画的に行い、生徒の自己肯定感を高め、やる気を引き出すプログラムを外部の教育力を活用して推進する。 年間計画の見える化を進め、1年次から進路決定までの見通しを明確にする。

領域	重点目標	自己評価の結果 (達成状況、結果の分析)	改善方策 (自己評価の結果を踏まえた課題・改善の方向)	学校関係者評価 (開かれた学校づくり委員会からの意見)	学校評価のまとめ (課題と次年度に向けた改善方策)
特別活動	<p>1 生徒会活動や部活動を通して、生徒の自主性・社会性を育てる。</p> <p>■具体的な方策(具体的な取組、手立て) 部活動の加入を促すとともに、生徒が協力して作り上げる生徒会行事を支援する。</p> <p>■評価項目・指標(評価方法・評価基準) 部活動加入率、定通体育大会や定通文化発表会の実績、生徒会行事の実施状況</p>	<p>1 定通体育大会では、春季(6月)、秋季(11月)とも5年目(卓球、バドミントン、バスケットボール、サッカー、野球)に参加した。残念ながら入賞はできなかったが、どの種目も生徒の参加態度は素晴らしいものであった。</p> <p>部活動加入率は、33%(昨年22%)と依然低い状態が続いているが、「部活動の活発化」に関する肯定的回答は、職員50%(昨年39%)、保護者77%(昨年62%)、生徒71%(昨年59%)とすべて上昇した。</p> <p>10月の定通総合文化大会では、8名(9作品)が入賞(昨年3名)し、大きく健闘した。</p> <p>生徒会主催の星華祭については、生徒の自主的活動を促しながら実施することを目標とし、夏季休業中から準備を行い当日の運営も生徒中心に行うことができた。</p> <p>「HR活動や生徒会活動の活発化」に関する職員と生徒のアンケートでの肯定的回答は、職員67%(昨年50%)、生徒74%(昨年70%)と上昇した。また、生徒の学校行事についての評価は、「学校行事は充実している」が80%(昨年76%)でいずれも上昇した。これは、生徒が学校行事に意欲的に参加していることの表れと考えられる。</p>	<p>1 生徒会活動、部活動ともに職員の丁寧な指導が効果を上げてきている。生徒の生活環境や気質の変化等、様々な要因が学校生活の変化に影響を与えるが、引き続き、全職員の共通理解のもと生徒の期待に応えていく。</p> <p>定通総合文化大会は、芸術科(音楽、美術、書道、工芸)の担当教員とも連携しながら生徒が達成感を感じられるようなきめ細かな指導を行う。次年度は本校が会場となるため、生徒会を中心とした大会運営を計画し、生徒の自主性・社会性の向上を図る。</p> <p>星華祭については、引き続き生徒による計画的な企画運営を促す。さらに、活動の成果を適時、ホームページやPTAだより等で発信する。</p> <p>学校行事については、今後も新たな企画立案や行事の精選化等も踏まえながら職員・生徒の意見を反映させて改善を図っていく。</p>	<p>①部活の充実化は難しいが、何かに熱中し、目標に達せなかった時の悔しさも、一つの向上心につながると思うので活発にするが良い。</p>	<p>①部活動は、活動時間等の制約があるが、熱心に参加している生徒を支援できるよう、環境を整える。生徒会活動は、恒例行事の他、定通文化大会の自校開催を控えているため、生徒会が主体的に企画運営を行えるよう導く。</p>
特別支援教育	<p>1 特別な支援を要する生徒をはじめ、すべての生徒へのきめ細かな対応を心がけ、生徒一人一人を大切にすることを目指す。</p> <p>■具体的な方策(具体的な取組、手立て) 校内の支援体制を整えるとともに、特別支援アドバイザー事業を積極的に活用し、教育事務所とも連携しつつ職員研修会を充実させる。</p> <p>■評価項目・指標(評価方法・評価基準) 教育相談委員会や特別支援関係者会議と校内研修会の開催状況 特別支援アドバイザーの活用状況</p>	<p>1 教育相談委員会で、特別な支援を要する生徒の状況を把握するとともに、必要な生徒に対しては、きめ細かな対応ができるように準備することに努めた。今後、さらに全日制的職員と協力して、教育相談に関する研修、思春期の子どもへの接し方、情報モラル講演会、人権講話(いじめやDV防止)、コーチング等の生徒・職員・保護者を対象とした研修会を実施し、職員の資質向上や保護者・生徒への啓発活動を充実させる必要がある。</p> <p>「教育相談のシステムがよく機能している」の職員の肯定的評価は94%(昨年83%)とより上昇した。また、「生徒の精神的な悩みなどの相談に応じてくれる」の生徒の肯定的評価は80%(昨年78%)であった。今後も組織全体で活動を充実させていくことを目指したい。</p>	<p>1 教育相談委員会の活動が年間計画のもとに組織的に行われており、高い自己評価となっている。今後は、PDCAサイクルにより組織全体の活動内容の充実を図っていく。特に、相談事例や特別な支援を必要とする生徒の情報共有の徹底を図り、スピード感のある適切な対応をめざす。</p> <p>各種研修については、関係機関との連携や職員の要望や喫緊の課題に対応した研修会の実施を目指し、充実したものとなるよう努める。</p>	<p>①生徒の多様性を大切にしてほしい。</p>	<p>①SC・SSWと連携した教育相談体制が効果を上げているため、引き続き、教員間の情報共有の徹底を図り、丁寧な支援を実践していく。</p>